

沖縄キリスト教学院大学FD委員会
(編・著)

2012年度 後期

学生による授業評価報告書

巻頭言

第1章 授業評価の概要

第2章 科目・クラス別評価

第3章 自由記述による授業評価

付 録 満足度調査報告

沖縄キリスト教学院大学

2012

巻頭言

2012年度 後期 学生による授業評価

沖縄キリスト教学院大学

学長 中原 俊明

2012年度後期の授業評価が2013年1月に実施され、その集約結果が本報告書にまとめられた。この大事なプロジェクトのために、貴重な時間と労力を割いて関わって頂いた委員の皆さんに厚くお礼を申し上げたい。

授業評価は、二つの方向において実施された。即ち、第1に学生から対教師の側面と第2に学生側の自問自答方式による評価である。

今回は、17の質問項目について、5段階回答方式（但し1つのみ6段階式）で実施され、集約されたが、その結果を概観すると、以下のような特徴点が看取される。まず、対教師の側面では、学期冒頭に教師が授業目的について明確に説明したとする学生がほぼ95%（4と5の評価を併せた結果。以下同じ）にのぼること、宿題や成績評価についての説明が明確であったとする割合が94%、教師の授業の分かり易さもほぼ90%が肯定的だったこと、教師側の授業準備に対しても94%が「よくできていた」とし、学生の理解を深める工夫も92%がこれを認めた。

他方、学生自身の自己評価では、明暗があるが、まず受講への熱意で90%が肯定的であり、また授業の前後におけるシラバスなどでの内容把握の有無に関しては5と4の評価が80%となり、前回調査の72%を改善する数値である。その反面、宿題や予習に充てる時間に余り改善がみられないようだが、アルバイトなど学習環境の厳しさなど外部的要因も示唆されている。しかし、授業の全体的評価として、約8割が肯定的であることに安堵を感じる。

「主体的に学び、考え、行動する人材を育成する大学教育」（2012/6/4 平野文科大臣）や建学の精神が強調される時代背景で、（主観が交じるが）特に次のような自由記述が目にとまった。即ち、「TOEIC スコアをアップできた」、「文章力が向上した」、「キリストの偉大さを学び、世界の動きを聖書に関連づけて学んだ」、「メサイアの歌詞の意味を知った」、「沖縄の歴史やアイデンティティや基地問題を考えさせられた」、「中国語や中国事情が勉強になった」、「スペイン語圏の文化やイスラム教にも触れえた」、「ビジネスメールや英語の履歴書作成ができた」、「ジェーンエアを始め英国の文学、歴史、文化も学び、アメリカの歴史、多様な価値観などに触れ、世界の人権やボランティアとは何か、沖縄の経済、日本とTPPの関係も勉強できた」等々。学びの手応えを感じさせられた。

沖縄キリスト教学院大学

FD委員会委員

(2012年度 後期)

中原 俊 明 (委員長・学長)

金 永 秀 (委員・人文学部長)

A. David Ulvog (委員・英語コミュニケーション学科長)

金城 繁 正 (委員・企画推進課課長代行)

執筆者

北 原 秋 一 (英語コミュニケーション学科 特任教授)

沖縄キリスト教学院大学

2012年度 後期

学生による授業評価報告書

第1章

学生による授業評価概要

はじめに

今回の学生による授業評価報告書は、2012年10月から2013年2月にかけての学期で開設された全92科目、109クラスについてのデータを分析したものである。評価活動は2013年1月に実施された。本章では全てのクラスを一括して分析する。すなわちクラスサイズの大小は問わず、回収された2,402件の評価票についての統計分析の結果を提示する。

1 評価項目ごとの度数分布

全回答票を評価項目別に一括して度数分布を求めた。評価は5段階法による。評価は17の視点(項目)から行っている(調査票は章末に掲げる)。そのうち16項目は5段階法で評定し、1項目は6段階法評定する。評価の基準は次の通りである。

5: 非常にそう思う

4: そう思う

3: どちらとも言えない

2: そう思わない

1: 全くそう思わない

なお、Q15については次の様にしてある；

5: 3時間以上

4: 2時間くらい

3: 1時間くらい

2: 30分くらい

1: ほとんどしなかった

Q16については次のようにしてある；

5: 秀

4: 優

3: 良

2: 可

1: 不可

0: わからない

以下に結果について述べる(表1~表17参照)。まず、Q1~Q17について凡例を述べる。表中「度数」は、1~5(または0~5)のそれぞれに評価した人数である。「パーセント」は、その度数の全2402延べ件数に対する比率を示している。「有効パーセント」は、「システム欠損値」除いた延べ件数に対する比率である。「システム欠損値」とは、無回答のことである。「累積パーセント」は、有効パーセントを積み上げたものである。

Q1からQ17の表は、それぞれ評価項目Q1からQ17の評価結果について度数分布を示

す。比率は「有効パーセント」の数値を用いる。また、本文中では小数第1位を四捨五入して示す。

Q1「学期の初めに授業の目的及びこの授業での学生のなすべきことについて明確に説明しました。」に対して79%の評価者が「5」（非常にそう思う）、と評価している。「4」（そう思う）、が16%であり、「5」「4」両評価を合算すると95%になる。授業への方向付けは極めて高い達成を示している、と考えられる。もっとも授業の目的の説明は「講義要項」に明記されているので授業中にあらためて説明するまでもないだろう。

Q2「宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました。」については77%が「5」（非常にそう思う）と評価している。「4」（そう思う）評価は17%である。両者で94%である。この設問も、講義要項を読めば周知のことであり、Q1、Q2については取り立てて説明すべき事項ではないかもしれない。

Q3「先生は、授業について熱意がありました。」は、教員の授業展開の評価である。「5」評価の比率が前回調査（79%）より高まり80%台（83%）となった。「4」評価の13%と合算すれば96%となり、極めて高い比率となる。すなわち学生たちは本学教員が授業に「熱意」があると評価している。

Q4「授業は、とてもわかりやすかった。」は受講生に対応した授業が実施されているかを調べるものだが、「5」評価した者の比率は72%である。「4」評価は18%である。「1」評価「全くそう思わない」（1%）、「2」評価「そう思わない」（2%）を合算すると3%である。「分かる」授業が展開されていることを示唆する結果であるが、3%の学生が否定的な評価をしていることには留意が必要であるが前回調査より低下している。

Q5「授業の準備はよくできていました。」で、教材研究や本時の計画がしっかり行なわれているかを推測することができる。教員要因の他に、授業に必要な機器備品等の整備状況も重要である。「5」評価は77%である。満足すべき結果であろう。「5」評価と「4」評価を合算すると94%に達する。

Q6「学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました。」も教材研究に関連する評価項目である。75%が「5」評価、17%が「4」評価である。「1」「2」を合算した比率が2%ほどになり、不満を表明している学生が低下している。

Q7「授業は時間どおりに始まり、時間どおりに終わりました。」は、時間管理の問題である。「5」評価は80%である。「4」評価が14%、両者合算すると94%になる。「1」評価と「2」評価の合算は1%である。

Q8「わからないことを質問できる機会や工夫がありました。」は、学生の授業参加を促しているかどうかを評価するものである。「5」評価が前回調査より上昇し77%となった。1%ほどの学生が低い評価を下している。

Q9「授業を乱す行為（私語・携帯電話（メールを含む）・居眠り・中座等）に対して適切に対応していました。」は、教員のクラス管理技量を問うものとなっている。講義の中での学生の「私語・居眠り・中座」を糺し学生の人間力を高め指導することが肝要である。前回調査（65%）に比べ72%が「5」と評価している。「5」評価と「4」評価を

合算すると 90%台 (91%) となっている。「1」および「2」評価をして、対処が不適切と考える者が 1%ばかりある。

Q10「この先生のこの科目を他の学生や他大学の学生にも受講を薦めたい。」は、授業への満足度の一端を示すだろう。「5」評価が 73%、「1」および「2」評価はそれぞれ 3%である。「5」と「4」の合算では 90%になる。「推薦したくなる」授業としてかなり満足しているようである。

以上は、教員に対する評価であった、次に、学生自身の自己評価について見てみる。

Q11「私は、この授業に熱意を持って取り組みました。」は、67%が「5」評価をしている。「4」評価と合算すると 90%になり、熱意の高さが表明されている。

Q12「授業の学習にあたり、シラバス（講義要項・学習計画）を参考にしました。」は、学生の授業への熱意の具体的な例証となる。熱意があれば絶えずシラバスを見ながら学習を行なうであろう。59%が「5」評価である。「4」評価が 21%、両方で 80%となり前回調査 (72%) と比べ大きく伸びている。「1」「2」評価を合算すると 4%と前回調査 (9%) から比率を大きく低下している。

Q13「授業中、私語や携帯電話（メール等）、中座など授業を乱すような行為はしませんでした。」は、学生自身の授業参加状況を尋ねるものである。評価「5」としたものは、68%である。「4」評価は 22%であり、「5」評価と「4」評価を合算すると 90%ほどになる。「1」評価が 1%未満である、「2」評価が 1%程度である。

Q14「この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした。」によって、授業への「真面目な取り組み」ないし、学ぶことの本気度が推測できるだろう。「5」評価は 62%、「4」評価は 21%であり、80%以上が真摯に本気で学んでいる。「1」評価は 1%、「2」評価は 3%となっている。

Q15「この授業のために週当たりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました。」は、授業への取り組みの強さを示すだろう。「1」評価が 35%であった。「1」評価とは授業時間以外での学習を「ほとんどしなかった」ことを示す。「2」評価 (30分くらい)、の評価の比率は 30%である。合算すると前回調査 (67%) とほぼ同水準の 65%である。少しは予習・復習等をしていると解釈できる「3」評価は 19%となっている。3時間以上の学習をする「5」評価は 3%、2時間くらいの「4」評価は 5%である。なお、この評価項目では 8% (191人) の学生が「無回答」であった。学習時間については家庭環境等 (アルバイト等) を考慮しながら本学アドバイザー制度等の有機的な活用を図りながら大学全体として対策を講じることが肝要である。

Q16「この授業を全体的に評価してください。」は、授業クラスの総合的印象評価である。「5」評価をしたものの比率は 56%である。「4」評価は 23%である。「4」と「5」評価の比率を合算すると約 80%となる。「1」評価と「2」評価を合算した比率が 2%である。無回答者が 2% (58人)、「わからない」とした者が 2% (42人) ある。

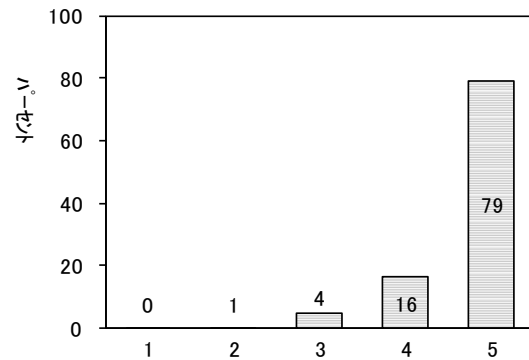
Q17「この先生の別の科目も受講したいと思います。」は、受講科目の授業が今後の授業に波及する効果を示唆するものであろう。今回の授業に満足度が高ければ他の科目へ

も誘因として働くと考えられるからである。「5」評価の比率は65%、「4」評価が16%である。8割以上の学生が一応この科目の担当者の授業に興味関心を持っていたであろうことが伺われる。一方「1」および「2」評価を合算した比率は4%となり前回調査に比べ若干低下し改善等がみられる。

Q1授業の目的

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	2	.1	.1	.1
	2	11	.5	.5	.6
	3	102	4.2	4.3	4.9
	4	384	16.0	16.0	20.9
	5	1898	79.0	79.2	100.1
	合計	2397	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	5	.2		
	合計	2402	100.0		

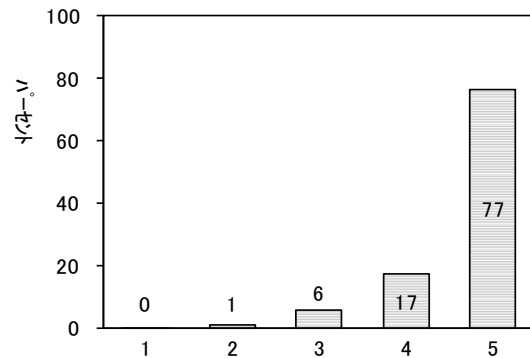
Q1授業の目的



Q2成績評価方法

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	5	.2	.2	.2
	2	17	.7	.7	.9
	3	131	5.5	5.5	6.4
	4	408	17.0	17.0	23.4
	5	1834	76.4	76.6	100.0
	合計	2395	99.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	7	.3		
	合計	2402	100.0		

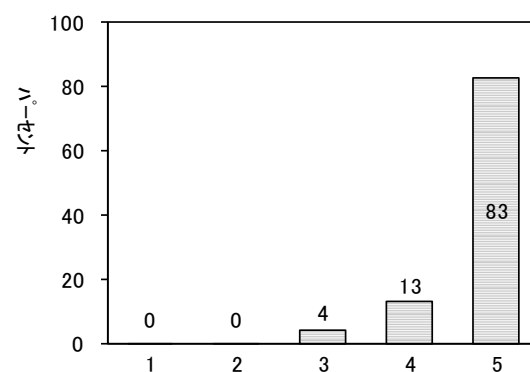
Q2成績評価方法



Q3先生の熱意

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	2	.1	.1	.1
	2	10	.4	.4	.5
	3	98	4.1	4.1	4.6
	4	304	12.7	12.7	17.3
	5	1982	82.5	82.7	100.0
	合計	2396	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	6	.2		
	合計	2402	100.0		

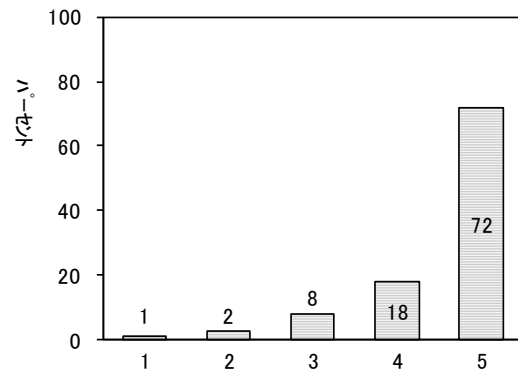
Q3先生の熱意



Q4わかりやすい

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	19	.8	.8	.8
	2	54	2.2	2.3	3.1
	3	184	7.7	7.7	10.8
	4	421	17.5	17.6	28.4
	5	1719	71.6	71.7	100.1
	合計	2397	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	5	.2		
合計		2402	100.0		

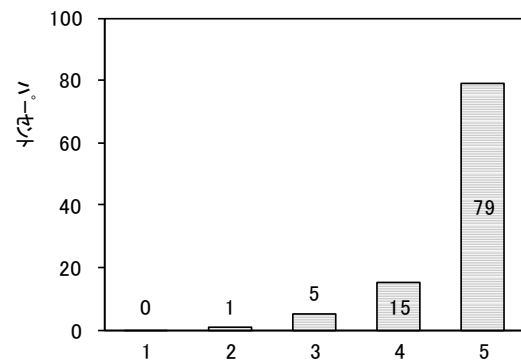
Q4わかりやすい



Q5準備よい

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	5	.2	.2	.2
	2	14	.6	.6	.8
	3	120	5.0	5.0	5.8
	4	363	15.1	15.1	20.9
	5	1890	78.7	78.8	99.7
	合計	2392	99.6	99.8	
欠損値	システム欠損値	10	.4		
合計		2402	100.0		

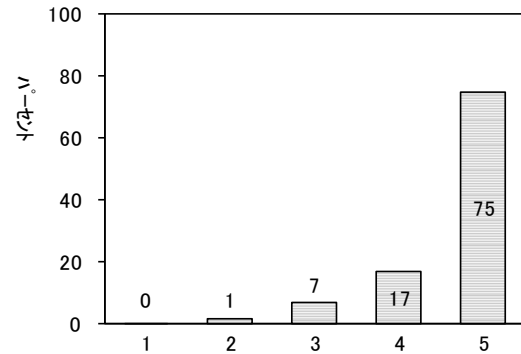
Q5準備よい



Q6理解興味の工夫

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	8	.3	.3	.3
	2	34	1.4	1.4	1.7
	3	163	6.8	6.8	8.5
	4	397	16.5	16.6	25.1
	5	1792	74.6	74.8	99.9
	合計	2394	99.7	99.9	
欠損値	システム欠損値	8	.3		
合計		2402	100.0		

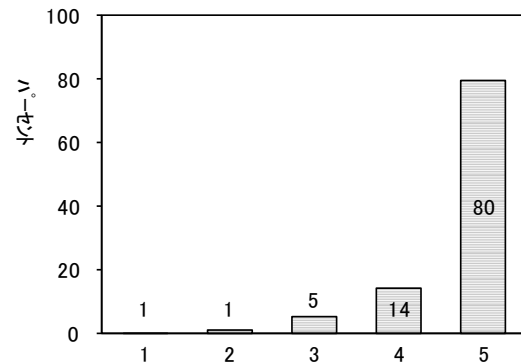
Q6理解興味の工夫



Q7時間どおり

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	13	.5	.5	.5
	2	19	.8	.8	1.3
	3	117	4.9	4.9	6.2
	4	337	14.0	14.1	20.3
	5	1910	79.5	79.7	100.0
	合計	2396	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	6	.2		
合計		2402	100.0		

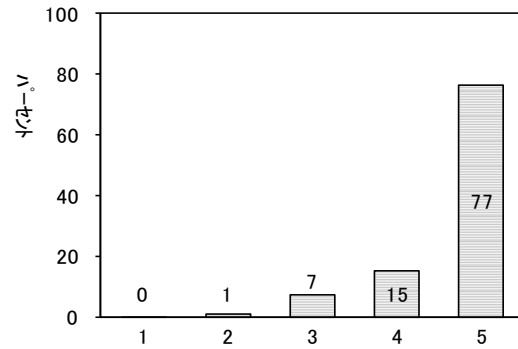
Q7時間どおり



Q8質問の機会

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	10	.4	.4	.4
2	22	.9	.9	1.3
3	165	6.9	6.9	8.2
4	364	15.2	15.2	23.4
5	1834	76.4	76.5	99.9
合計	2395	99.7	99.9	
欠損値 システム欠損値	7	.3		
合計	2402	100.0		

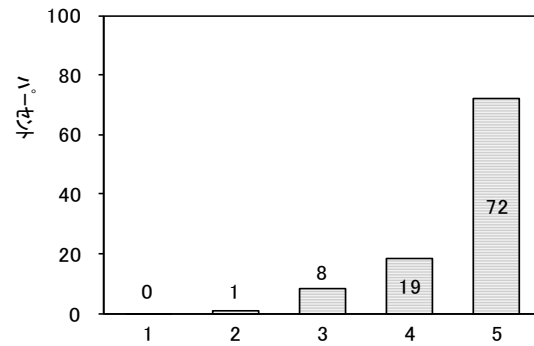
Q8質問の機会



Q9授業妨害へ対処

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	8	.3	.3	.3
2	24	1.0	1.0	1.3
3	194	8.1	8.1	9.4
4	444	18.5	18.5	27.9
5	1725	71.8	72.0	99.9
合計	2395	99.7	99.9	
欠損値 システム欠損値	7	.3		
合計	2402	100.0		

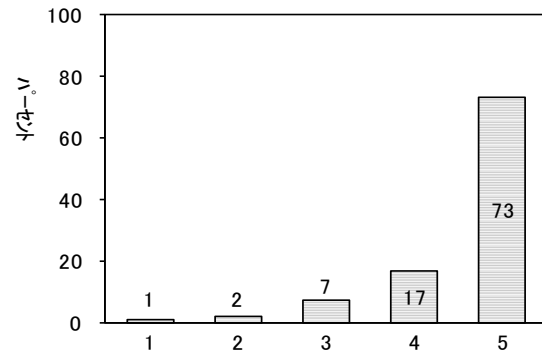
Q9授業妨害へ対処



Q10薦めたい

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	25	1.0	1.0	1.0
2	38	1.6	1.6	2.6
3	168	7.0	7.0	9.6
4	403	16.8	16.8	26.4
5	1759	73.2	73.4	99.8
合計	2393	99.6	99.8	
欠損値 システム欠損値	9	.4		
合計	2402	100.0		

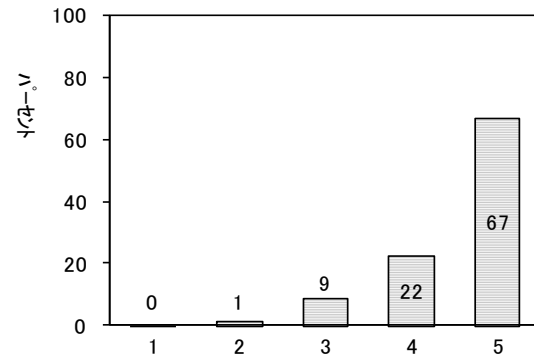
Q10薦めたい



Q11熱意を持って参加

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	8	.3	.3	.3
2	30	1.2	1.3	1.6
3	210	8.7	8.8	10.4
4	536	22.3	22.4	32.8
5	1609	67.0	67.1	99.9
合計	2393	99.6	99.8	
欠損値 システム欠損値	9	.4		
合計	2402	100.0		

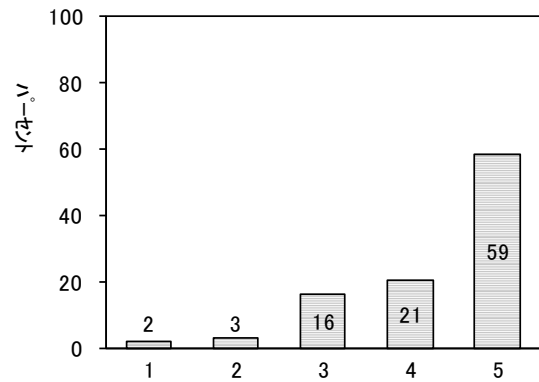
Q11熱意を持って参加



Q12シラバス参考

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	39	1.6	1.6	1.6
2	64	2.7	2.7	4.3
3	391	16.3	16.3	20.6
4	494	20.6	20.6	41.2
5	1405	58.5	58.6	99.8
合計	2393	99.6	99.8	
欠損値 システム欠損値	9	.4		
合計	2402	100.0		

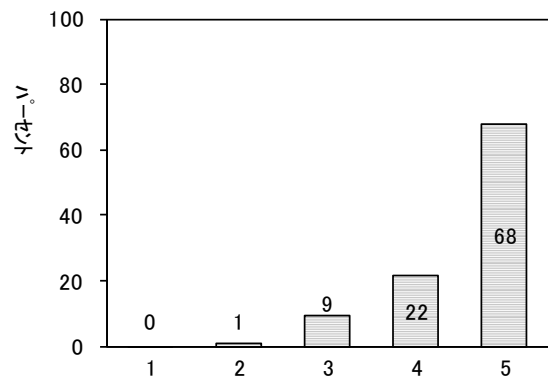
Q12シラバス参考



Q13授業を中座しない

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	6	.2	.3	.3
2	19	.8	.8	1.1
3	225	9.4	9.4	10.5
4	519	21.6	21.7	32.2
5	1624	67.6	67.8	100.0
合計	2393	99.6	99.8	
欠損値 システム欠損値	9	.4		
合計	2402	100.0		

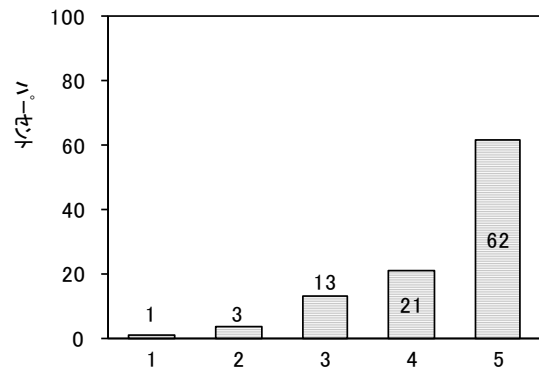
Q13授業を中座しない



Q14遅刻欠席ない

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	21	.9	.9	.9
2	78	3.2	3.3	4.2
3	309	12.9	12.9	17.1
4	499	20.8	20.8	37.9
5	1474	61.4	61.5	99.4
合計	2381	99.1	99.3	
欠損値 システム欠損値	21	.9		
合計	2402	100.0		

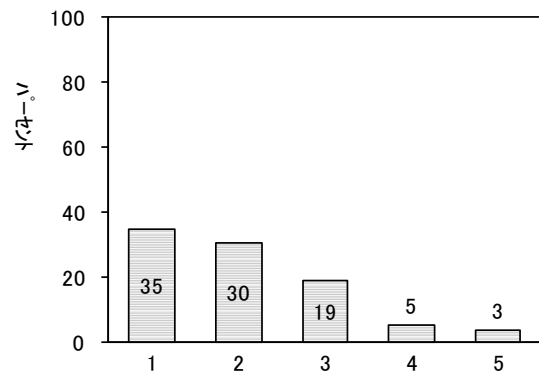
Q14遅刻欠席ない



Q15予習復習時間

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	837	34.8	34.9	34.9
2	727	30.3	30.3	65.2
3	451	18.8	18.8	84.0
4	119	5.0	5.0	89.0
5	77	3.2	3.2	92.2
合計	2211	92.0	92.2	
欠損値 システム欠損値	191	8.0		
合計	2402	100.0		

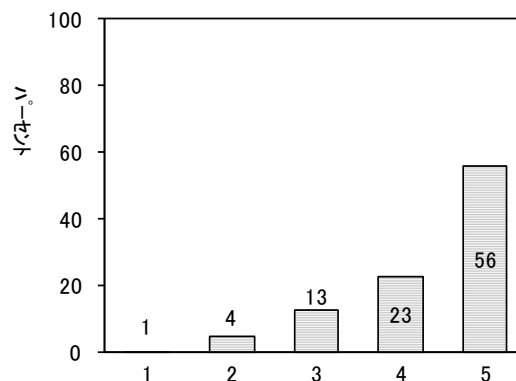
Q15予習復習時間



Q16全体的評価

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 0	42	1.7	1.8	1.8
1	12	.5	.5	2.3
2	106	4.4	4.4	6.7
3	302	12.6	12.6	19.3
4	539	22.4	22.5	41.8
5	1343	55.9	56.0	97.8
合計	2344	97.6	97.8	
欠損値 システム欠損値	58	2.4		
合計	2402	100.0		

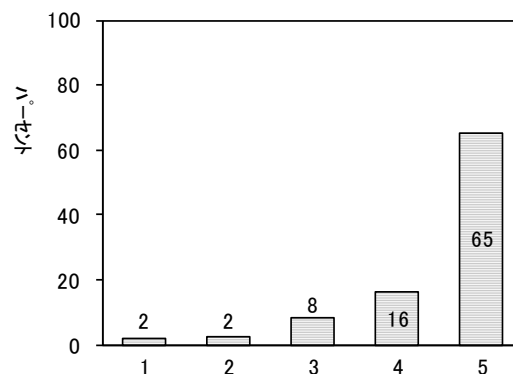
Q16全体的評価



Q17別の科目も受講したい

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	42	1.7	1.8	1.8
2	53	2.2	2.2	4.0
3	197	8.2	8.2	12.2
4	390	16.2	16.3	28.5
5	1568	65.3	65.4	93.9
合計	2250	93.7	93.9	
欠損値 システム欠損値	152	6.3		
合計	2402	100.0		

Q17別の科目も受講したい



2 学生による授業評価の概要

各設問に対する「1～5」の評定を、それぞれ1点から5点に数値化し、これを元にし、平均値等の基本等計量を求めた。

ここでは、全クラスの評価を一括した結果を示す。

一般的に、5点満点中4点以上の評定平均となっており、かなり満足できる授業が展開されていることが示唆される。とりわけ、教員に関わる項目では4.5点以上の評価がなされており、極めて高い評価となっている。特に「先生の熱意」が一番高評価(4.8)なのは、大学の人的資産が高く評価されている。ただし、これは全教員を一括した場合のことであって、個々の教員にあっては偏差がみられ、今後の検討等が必要である。

学生個々人の自己評価に関わる5項目でも4項目は「4」以上の評価であり、熱心な学生像がイメージされる。学生要因としての「予習復習にかかる時間」が2.0となっており、ほぼ30分程度の学習時間である。学生は授業時間以外には勉強をあまりしない。

Q16「全体的評価」は、4.27となっており、十分満足すべき結果であろう。ただし、評価を「白紙」回答した者は2%である。

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	2397	1	5	4.74	.562
Q2成績評価方法	2395	1	5	4.69	.625
Q3先生の熱意	2396	1	5	4.78	.540
Q4わかりやすい	2397	1	5	4.57	.793
Q5準備よい	2392	1	5	4.72	.601
Q6理解興味の工夫	2394	1	5	4.64	.701
Q7時間どおり	2396	1	5	4.72	.643
Q8質問の機会	2395	1	5	4.67	.682
Q9授業妨害へ対処	2395	1	5	4.61	.707
Q10薦めたい	2393	1	5	4.60	.775
Q11熱意を持って参加	2393	1	5	4.55	.734
Q12シラバス参考	2393	1	5	4.32	.949
Q13授業を中座しない	2393	1	5	4.56	.716
Q14遅刻欠席ない	2381	1	5	4.40	.895
Q15予習復習時間	2211	1	5	2.04	1.054
Q16全体的評価	2344	0	5	4.27	1.070
Q17別の科目も受講したい	2250	1	5	4.51	.889

3 学習時間量の問題

前述のように、学生の予習復習に欠ける時間量の平均は2.0であった。昨年調査も同様な低レベルであり改善が求められる。

今後、大学全体の課題として位置づけ、授業の成果である就職・資格取得等を加味し、ヒヤリング・分析等を行ったうえで、アドバイザー制度等を有機的に用い、大学として学生への具体的な指導プログラム等の構築が求められている。

4 自由記述による評価

自由記述による授業評価は、①授業の良い点、②改善して欲しい点、③授業方法についての感想・意見・印象に残ったことの3つの設問から構成されている。この授業評価の目的は、第一義的には、授業改善の資料を得ることである。

ここでは、②の改善点を中心に検討を進める。

改善点は①授業の進め方、②説明、③テキスト、④板書、⑤分かりやすさ、⑥宿題、⑦クラス運営、⑧評価、⑨出席管理、⑩プリント、等々多岐にわたる。これらは教育方法手法に関する事、教員個人の資質に関する要因、施設設備関連等に分けられる。

記述評価は客観評価に比べて具体性がある。授業の進め方ではペースが速すぎる、逆に遅い、と相反する意見が記載されている。詳しく説明してほしい、難しい言葉が多い、学生が宿題をやってこないなので授業が進まない、何度も同じことを説明している、淡々としていて授業に工夫がない、テキストに関しては価格が高い、教科書が高いのにあまり授業では使用されない等とされている。板書は、字の上手下手、ホワイトボードの文字が薄い、ゆっくりと説明してほしい、スピードが速くてノートが取れない、分かりや

すさに関する指摘が散見される。難しい、専門的すぎる等々、受講生の現状を把握する上で課題のあることが浮き彫りになっている。クラスの運営については、特に私語・おしゃべりが多いことを注意していない、土日の補講が多い、英語授業の中でグループで会話する機会を持ってほしい、質問の機会をつくってほしい、時間どおりに終了してほしい等と指摘されている。

教員の早口に学生が対処できていない現況も明らかである。出席管理については、前回調査でも挙がっているが、特に遅刻の取り扱いに非常勤講師を含め、全教員の共通申し合わせが必要であろう。プリントについては、多すぎると指摘する一方、プリント学習を求める意見もある。

おわりに

2012 年度後期における本学の授業は、各教師の授業に対する熱意・工夫等により、前回調査より総じて評価が上昇し改善の動きが見られた。5 段階評価でいずれも 4 点を超えている。

学生要因については、前回調査と同様、「授業時間以外の学習時間の短さ」が指摘できる。これは、前回調査等でも大きな課題として取り上げられている。この項目は学生個人の課題でもあるが、家庭環境等（アルバイト等）の影響等もあり、本学として抜本的な対策を考えなくてはならない。

自由記述の部分において、「授業の進め方」「説明」「テキスト」「分かりやすさ」の関連項目に改善要望が多く寄せられている。また教師の熱意は総じて学生に伝わっており、さらに教育の質を更に向上させるため、本学において WG 等によりスポット的ではなく、継続して本学教育方法を改善する仕組みが喫緊の課題となっている。

学生による授業評価について

調査期間： 前期 7 月
後期 1 月
調査対象： 全クラス

学生のみなさまへ：

この調査は、本学の教育活動を充実・改善するための基礎資料を得るために、全クラスについて実施されるものです。なお、この調査データはコンピュータにより統計処理され、担当教員に個々の生データを閲覧させることはありません。「成績」に影響を及ぼすようなことはありません。またプライバシー保護については十分留意します。

率直な（真摯な）評価をお願いします。

自己点検・評価委員会委員長

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学学長

※ 記入終了後、指名された学生が回収します。 提出先：教務課

PART I 設問 1～17 について、評価欄のあてはまる数字（5～1）に○をつけてください。

評価の基準： 5 非常にそう思う 4 そう思う 3 どちらとも言えない 2 そう思わない 1 全くそうは思わない

	評 価 欄
1. 先生は、学期の初めに授業の目的及びこの授業での学生のなすべきことについて明確に説明しました。	5 4 3 2 1
2. 先生は、宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました。	5 4 3 2 1
3. 先生は、授業について熱意がありました。	5 4 3 2 1
4. 先生の授業は、とてもわかりやすかった。	5 4 3 2 1
5. 先生の授業の準備はよくできていました。	5 4 3 2 1
6. 先生は、学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました。	5 4 3 2 1
7. 先生の授業は、時間どおりに始まり、時間どおりに終わりました。	5 4 3 2 1
8. 授業でわからないことを質問できる機会や工夫がありました。	5 4 3 2 1
9. 先生は、授業を乱す行為（私語・携帯電話（メールを含む）・居眠り・中座等）に対して適切に対応していました。	5 4 3 2 1
10. 私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するよう薦めたい。	5 4 3 2 1
11. 私は、この授業に熱意をもって取り組みました。	5 4 3 2 1
12. 私は、授業の学習にあたり、シラバス（講義要項・学習計画）を参考にしました。	5 4 3 2 1
13. 私は、授業中、私語や携帯電話（メール等）・中座など、授業を乱すような行為はしませんでした。	5 4 3 2 1
14. 私は、この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした。	5 4 3 2 1
15. 私は、この授業のために週当たりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました。 ※当てはまる数字に○をつける。	
5 (3 時間以上) 4 (2 時間ぐらい) 3 (1 時間ぐらい) 2 (30 分ぐらい) 1 (ほとんどしなかった)	
16. この授業を全体的に評価してください。 ※当てはまる数字に○をつける。 5 秀 4 優 3 良 2 可 1 不可 0 わからない	
17. 私は、この先生の別の科目も受講したいと思います。	5 4 3 2 1

科 目 名	クラス名 ()			
学籍番号*				男
学 年	1	2	3	4
所属学科	1 英語科		2 保育科	
	3 英語コミュニケーション学科			
	4 科目等履修生			
入 試 区 分	1 一般入試		2 推薦入試	
			3 AO入試	

* (学籍番号) できるだけ記入してください。

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

(裏面に記入)

1. この授業のよい点
2. この授業に改善してほしい点
3. この科目や担当者の授業方法について、感想・意見・印象に残ったこと。
4. 学長へ (聞いてほしいこと)

(裏のページへ進んでください⇒)

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

※この記述は統計的に処理され、この回答用紙を担当教師が直接に閲覧することはありません。

1. この授業のよい点													
2. この授業に改善してほしい点													
3. この科目や担当者の授業法について、感想・意見・印象に残ったこと。													
4. 学長へ（聞いてほしいこと）													